



町内最大規模の山田中央団地

◆災害公営住宅への引っ越しの完遂

本町の災害公営住宅については、27年度までには豊間根、大沢、柳沢、織笠、大浦の5地区、28年度は町内最大規模の山田中央団地と整備を進めてまいりました。30年度には計画戸数全てが完成する予定であります。時間の経過とともに被災者の

意向が変化することも十分あり得ることから、今後とも意向調査等により必要戸数を把握しながら、引っ越しを完遂していただけるよう取り組んでまいります。

町内6地区で進めている高台移転等の宅地造成工事は現在、大詰めを迎えております。年内には山田地区を除く5地区で造成が完了する予定で、織笠地区

などではすでに住宅再建が目に見えて進んでいる状況であります。

山田地区については用地取得の難航等で時間を要しましたが、29年度には高台団地と区画整理地内の嵩上げ工事の完成を見込んでおります。併せて、応急仮設住宅の集約化を進めていかなければなりません。集約化については、復興事業・災害公営住宅建設・高台移転等の事業の進捗状況が関わってまいりますので、各種の調整を行いながら、最終的には31年度にすべてを撤去する計画で進めてまい

ります。

いずれにしましても、本業務の遂行に当たっては、そこにお住まいの皆様の様々な状況と感情が絡むものでございます。丁寧な配慮を心掛けることはもちろんではありますが、本設のお住まいへの引っ越しの完遂は復興の大前提となるものであり、本件について覚悟をもって取り組んでまいります。

◆復興工事の完遂

誰もが経験したことがない大災害から5年余。この間、本町では、23年12月に策定した山田町復興計画に基づき、『二度と津波による犠牲者を出さない』ことを大命題として復興のまちづくりを進めてまいりました。

その中で、本年は26年度から始まった「再生期」の3年目の年であり、新たな土地での住宅再建はピークを迎え、商工業者等の生業再生に向けた活動も本格化いたします。

陸中山田駅前には、まちなか再生計画に基づく共同店舗棟や交流施設などの建設が進み、本年中には賑わいのある中心市街地が徐々に姿を現します。

そして、30年度から32年度の「発展期」というステージでは、町中心部の区画整理事業も完了し、居住区域はすべて引き渡します。また、三陸鉄道による宮



整備が進む駅前周辺

古く金石間の鉄道の運行が開始されるなど、復興のまちづくりは最終段階を迎えてまいります。今後は山田町復興計画の仕上げとともに、住居と地域の再編が進むことによる、新たなコミュニティの形成や公共交通の再編など、町が持続的に発展していくための様々な取り組みを進めてまいります。

◆住宅再建への支援

今後、各種事業の進行とともに、再建支援制度の啓発と相談業務体制の充実強化を図りながら、住宅再建をしていただけるよう、これからも引き続き支援してまいります。

本町ではこれまで、被災者の住宅再建を後押しするため、各種補助金制度を創設しておりま